



目 次

インターネット時代の学術情報流通とHUSCAPの現況

附属図書館情報システム課

一戸 佳織, 堀越 邦恵, 杉田 茂樹……………1

附属図書館利用者アンケート調査結果概要 (その2) ……7
資料紹介Samuel Johnson, *A Dictionary of the English Language* の寄贈

文学研究科助教 宮下 弥生……………23

平成19年度特別図書購入費による購入資料……………25

お知らせ

・来館日誌 (平成19年7月～10月)……………29

・マークエステル画集『日本神話』展示会・講演会を
北分館で開催, そして, マークエステル氏来館……………30

・北海道大学附属図書館講演会を開催しました……………32

・2007北海道大学オープンキャンパスが実施されました……………33

・平成19年度附属図書館インターンシップ (図書館実習)
について……………33

コラム: 附属図書館書庫紹介……………34

教員著作寄贈図書・学術成果コレクション (HUSCAP) 寄贈文献
(平成19年6月21日～10月16日)……………36

会議 (平成19年7月11日～11月6日)……………37

人事往来……………38

各委員会等委員変更について……………38

図書館日誌 (平成19年7月～10月)……………39

インターネット時代の学術情報流通とHUSCAPの現況

附属図書館情報システム課

一戸 佳織, 堀越 邦恵, 杉田 茂樹

1. HUSCAPとは

「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」は、北海道大学所属研究者 (大学院生を含む) の研究論文, 学会発表資料, 教材等を図書館資料として電子的に保管し, 後世へ継承するとともに, インターネットを通じて全世界の研究者に提供する電子コレクションです。

2. 収録文献

平成18年4月の正式公開から1年半を迎え,

収録文献は平成18年11月15日に1万件, 平成19年10月15日には2万件に到達しました。

これらの文献を提供くださった先生方から次のようなメッセージを頂いています。

- ・「私の専門分野 (心理生理学) とは異なる領域の方々に読んでいただき, 率直な感想を聞いてみたいです」 (澤木梨沙さん (教育学研究科博士後期課程 (当時。以下同じ))。1万件目の文献)
- ・「同じ専門領域の方々は, データベースやジャ



一ナル経由で読まれることと思います。キーワード検索等でたどり着いた他分野の方々の感想や、できれば、こういう役に立ったというフィードバックがあれば、1万件目という偶然による喜びに加え、掲載していただいたことの意義が、よりいっそう感じられると思います」(共著の片山順一助教授(教育学研究科))

- ・「光物性の研究者や、応用開発に携わっているフォトニクス研究者が読んでくれれば嬉しいです。それにしても、多くのHUSCAP論文の中で、2万件目に登録されたという偶然に驚いています」(田中啓司教授(工学研究科)。2万件目の文献)

3. 利用状況

また、平成19年7月12日、HUSCAPの閲覧数

(文献ダウンロード数)は、通算100万回に達しました。よく利用される文献のリストを次ページに示します。著者の先生方からは次のようなメッセージを頂きました。

- ・「講義ノート作成とHUSCAPへの投稿は、そのダウンロード数をみるにつけ、とかく我々が「面倒だなあ」と考えがちな講義準備にある種の潤いを与え、講義をより良いものにして行こうという気を起こさせてくれるものとして大変意義深いものであると私は思います」(「2005年度 グラフ理論講義ノート」井上純一准教授(情報科学研究科))
- ・「HUSCAPにおける高頻度閲覧文献を見て――。HUSCAPでよく閲覧されている文献の一覧表が発表された。特に目につくのは、そこに多様なマテリアルが混在していることである。これはHUSCAPの多様性と展開可能性を示すも

のとして貴重であり、今後とも研究・教育の殿堂たる本学のインフラ、そして、情報発信基地として、この方向を堅持していただきたい。ところで、大学の責務が研究と教育である以上、HUSCAPの中心が研究論文と教育資料になるのは当然のことである。そして、閲覧頻度が当該資料の価値（とりわけ研究論文の場合、その学問的価値）を測るものではないことは明らかであり、この一覧表は「価値」の問題でなく、「ニーズ」の問題を測る目安に過ぎないし、逆にそのような意味ならあるのではないかと思う。たとえば教育用の教材にはアクセス数が多いようだが、これは集団としての学生が閲覧している以上、当然とも言えるし、同時にHUSCAPがそのようなインフラとして機能しはじめていることを示している。」（「平成18年度民法入門」池田清治教授（法学研究科））

よく読まれる文献は授業資料や近刊の論文に限りません。100万回目に閲覧された文献は、昭和63年に書かれた李起泳「ドロノキ材の結晶とその成長」（北海道大学農学部演習林研究報告、45巻3号、pp.717-788）でした。ほかにも、歴史的な文献としては明治35年の宮部金吾「ON THE LAMINARIACEAE OF HOKKAIDO」（札幌農学校紀要、初号、pp. 1-50）などもHUSCAPに収載されており、内外から100回を超えるダウンロードがあります。ダウンロード数は毎月著者の先生方へ電子メールでお伝えしています。

収録文献数及びダウンロード数の推移を本記事末尾に示します。

4. 学術文献流通の現在

学問は、時代と地域を超えた人類の共有資産です。

電子ジャーナルの隆盛などにも見られる通り、学術情報の流通は電子形態が主流を占めつつあります。電子情報は即時性、広域性の点で従来の紙媒体の印刷・配送にくらべて遥かに優れて

<高頻度ダウンロード文献リスト>

研究論文、講演資料等(右はダウンロード回数)

逸見勝亮. 自衛隊生徒の発足 －1955年の少年兵－	4,726
Yoshimura, Yasuo. A Prospect of Sail-Assisted Fishing Boats	4,330
行木孝夫. 北大の実験と可能性…メ タデータ交換プロトコルOAI-PMHに 準拠したe-printサーバ構築	2,906
表山和樹… [et al.]. 癌細胞にお ける細胞増殖抑制とアポトーシス	2,385
服部祥治. 新規評価方法OASIS を活 用した緑茶香気分析に関する研究	2,129
田中順一… [et al.]. Sn-Ag-Al系 合金/Cu接合による界面溶解反応と 熱疲労サイクル特性	2,100
永田晴紀. 北海道のCAMUIロケット	1,963
富永靖徳 … [et al.]. 水の動的 構造 : ラマン散乱分光	1,848
杉山英一 … [et al.]. 廃プラスチ ック油化→フィードストックリサイ クルの進展	1,822
前田智雄. アスパラガス一代雑種の 効率的採種法及び生理活性機能向上 に関する基礎的研究	1,798

教育資料類(右はダウンロード回数)

井上純一. 2004年度 グラフ理論講義ノート	20,536
池田清治. 民法入門(平成18年度)	17,594
井上純一. 2005年度 グラフ理論講義ノート	17,207
井上純一. 2005年度 情報理論講義ノート	14,051
井上芳郎. 解剖学実習指針	13,057
井上純一. 2004年度 情報理論講義ノート	10,640
井上芳郎. 統合・基礎神経学 - 神経 系の構造を中心に	8,948
井上芳郎. 基本顕微構造解析法 I・II	8,201
井上純一. 2004年度 混沌系工学特論講義ノート	7,318
井上純一. 2006年度 グラフ理論講義ノート	4,813

いますが、その反面、常に散逸の危険をはらんでいます。現在世界の多くの大学・研究機関が、所属研究者の著した文献を、図書館蔵書の重要な一角として、電子コレクション化していく活動を進めています。

90年代から学術雑誌の価格は高騰を続けています。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できていますが、世界の他の大学・研究機関では研究に必要な文献の入手が困難な状態になっていることも少なくありません。こうした経済的な障壁を取り除き、あらゆる学術文献の本文を誰もが無料でオンライン閲覧できる環境を創り出そうという活動（オープンアクセス運動）が盛んになっています。無料の電子ジャーナルを創刊したり、各研究者が雑誌へ投稿すると同時に所属機関のWebサイトで同じ論文を公開していこうという動きです。

HUSCAPは、この後者（機関からの論文公開）の基幹システムとなることも目指しています。ある調査では、例えば物理学分野では、公開された論文は、そうでない論文に比べてより多くの研究者の目に触れるので、より多く引用されるという統計結果が報告されています。HUSCAPは、収録文献の公開により、みなさまの論文の可視性（visibility）を高め、潜在的な読者層を開拓します。

5. 説明会の開催

附属図書館では、より多くの著作文献のご提供を頂くべく、HUSCAPの説明会を、6月18日（月）の農学院・農学研究院を皮切りに学内の多くの研究院等で開催しています。今年度は、次ページの一覧の通り、現在までに20ヶ所で開催し、合計439名の研究者の方々に参加を頂きました。農学院・農学研究院や歯学研究科では寸劇を交えた説明会も試み、いずれも好評を得ています。



農学院・農学研究院での説明会



説明会参加者の協力で寸劇を実施

各説明会では、予定時間を超える活発な質疑応答が交わされ、私たちにとってもたいへん有意義な機会となりました。主な質疑の内容を以下に示します。

今後さらに多くの研究院等を対象にして、同様の説明会を開催していきたいと考えておりますので、多くの研究者のみなさまの参加をお願いします。また、開催のご希望がありましたら、附属図書館情報システム課（内線2564）まで御連絡ください。

6. おわりに

附属図書館では、今後とも本学所属研究者の研究成果・教育資料の公開に、より一層つとめてまいりたいと考えています。ご著作をより多くの人々へ届けるため、論文等の研究成果のHUSCAPへの寄贈をお願いします。

<HUSCAP説明会開催一覧>

- 6月18日(月)
農学院・農学研究院 (HUSCAP説明会)
- 7月4日(水)
医学研究科 (Ovid講習会)
- 7月5日(木)
低温科学研究所 (運営委員会)
- 7月11日(水)
触媒化学研究センター (部門教授会)
- 7月12日(木)
情報科学研究科 (コンピュータサイエンス専攻会議)
- 7月13日(金)
スラブ研究センター (全体会議)
- 7月20日(金)
歯学研究科 (HUSCAP説明会)
- 7月23日(火)
医学部保健学科 (図書委員会)
- 7月24日(火)
獣医学研究科 (教授会)
- 7月27日(金)
工学研究科 (臨時代議員会議)
水産科学院・水産科学研究院 (教授会)
- 8月31日(金)
教育学研究院 (教授会)
- 9月14日(金)
文学研究科 (教授会)
- 10月1日(月)
北方生物圏フィールド科学センター (教授会)
- 10月4日(木)
環境科学院・地球環境科学研究院 (教授会)
- 10月11日(木)
法学研究科 (教授会)
- 10月23日(火)
電子科学研究所 (教授懇談会)
- 10月26日(金)
薬学研究院 (教授会)
- 11月7日(水)
工学研究科 (材料科学専攻会議)
- 11月8日(木)
経済学研究科 (教授会)

<説明会質疑応答(抄)>

- Q. HUSCAPに原稿を掲載できるのは北大の構成員のみですか？
- A. いいえ。現在北大に在籍されていない方でも、北大在籍中に書かれた論文を掲載できます。
- Q. 最終的に出版された形の原稿をHUSCAPに載せられますか？
- A. 出版後の原稿は、出版社の版權の都合上、HUSCAPのような電子コレクションへの掲載がほとんど認められておりません。そのため附属図書館では、著者最終稿をお預かりしております。
- Q. 最終稿はそのままだと見づらいので、私がレイアウト編集した電子ファイルをHUSCAPへ載せたいのですが？
- A. 歓迎いたします。なお、附属図書館におまかせ頂く場合は、本文と図表を単純に連結してPDF化いたします。
- Q. 講義録や会議録、学会資料、講演会資料などをHUSCAPに載せることはできますか？
- A. いずれも掲載可能です。学会発表資料については、予稿でも発表スライドでも結構です。他の出版物から転載した図や写真などが混じっている場合は、あらかじめ原作者の了解を得て下さい。
- Q. 動画を掲載できますか？
- A. はい、可能です。容量が大きくてメールでの送付ができないような場合は、対応させていただきますのでご相談下さい。

別 表

